

令和2年 飯田市教育委員会 1月定例会会議録

令和2年 1月16日(木) 午後3時開会

【出席委員】

教育長	代田 昭久
教育長職務代理者	北澤 正光
教育委員	伊藤 昇
教育委員	三浦 弥生
教育委員	上河内 陽子

【出席職員】

教育次長	今村 和男
地域人育成担当参事	青木 純
学校教育課長	桑原 隆
生涯学習・スポーツ課長補佐	小嶋 和好
文化財担当課長	馬場 保之
市公民館副館長	秦野 高彦
中央図書館長	瀧本 明子
美術博物館副館長	池戸 通徳
歴史研究所副所長	小椋 貴彦
学校教育課長補佐	滝沢 拓洋

日程第1 開 会

○教育長（代田昭久） それでは改めまして皆さんこんにちは。ただいまより令和2年飯田市教育委員会1月定例会を開会したいと思います。

日程第2 会期の決定

○教育長（代田昭久） 日程第2、会期の決定、今月の定例会会期を本日1日とさせていただきます。

日程第3 会議録署名委員の指名

○教育長（代田昭久） 日程第3、会議録署名委員の指名、今月の会議録署名委員を三浦弥生教育委員にお願いいたします。

◇教育委員（三浦弥生） お願いします。

○教育長（代田昭久） よろしくお願いします。

日程第4 会議録の承認

○教育長（代田昭久） 日程第4、会議録の承認、12月定例会の会議録のほう、ご承認ということでよろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） よろしくお願いします。

日程第5 教育長報告事項

○教育長（代田昭久） 日程第5、教育長報告事項。

それでは、新年に当たりまして私のほうから3つ書類を用意させていただきましたので、よろしくをお願いいたします。

まずはペラ1枚で、和を以て貴しとなすというタイトルがついて、これは年度末の12月の教育委員会の職員を集めての教育長訓示、また、年度当初の部長会等庁内で話す機会があったところで、こんな内容を話していますということで、共有させていただきたいというふうに思います。

中身はじっくりまた読んでいただければと思いますが、昨年の話もあったので、昨年やっ

ぱり「ワン・チーム」という言葉が非常にブームになり流行りました。ただその乱発感の中で、そもそもその「ワン・チーム」っていうのはどういう経緯で生まれてきたのか、またどういう思いをもって生まれた言葉なのかというのがすごく大事ななあというふうに思っただけでも、これも解いてみると、これラグビーのワールドカップの日本チームで初めて使われたというのが、今から3年半前ですね。ジェイミー・ジョセフヘッドコーチが、自分が監督になったときの1か月後の記者会見でこの新チームは「ワン・チーム」でいくという会見をしています。

なぜ、「ワン・チーム」という言葉を使ったかということ、その新チームというのが前代表が12名、そして新代表選手が17名ということで、新旧いろんな価値観がある中で初めて会合した時に「これは大変だと」、それでももちろんベテランはベテランの考え方があるし、新人は新人の考え方があるので、そういった中で新しいチームをつくり上げるためについていうことでミーティングを開き、その中で「ワン・チーム」という言葉が出てきたというのが日本で「ワン・チーム」が初めて使われた背景です。

じゃあもう少しさかのぼると、「ワン・チーム」という言葉が世界のスポーツ界で出たのが、1995年の「ワン・チーム、ワン・カントリー」という言葉が南アフリカチームの中でチームのスローガンとして発せられています。

この時のどういう背景があったかということ、初出場であったわけですがけれども、アパルトヘイトの人種隔離政策が撤廃されたにも関わらず、当時の南アフリカは白人と黒人も非常に強い対立、確執があったと、その中の初出場の国なのでいろんな背景を持ついろんな民族の人たちが集まっても、1つになって成し遂げることができるんじゃないかという強い願いが下で「ワン・チーム、ワン・カントリー」っていうのがこのラグビーの中でできたわけです。

こういった背景の中、この「ワン・チーム」の持つ意味っていうのは、単に仲良くすればいいというわけではなくて、価値観の違う人間がその溝を埋めるべく話し合いをしたり、価値観を時には戦わせながらも信頼関係をつくっていくと、そういうことが「ワン・チーム」になる大きな要因なんだろうなというふうに思います。

そんな思いもあったので、裏面のほうにありますが、今年の手紙初めというか書道として「和を以て貴しと為す」と書かせていただきました。

これもご存じの方多いと思いますが、もちろん聖徳太子の十七条の憲法であります、これ同じことが良いっていうふうなニュアンスで捉えられるケースもあるんですが、実は違っていて「安易に同調するのではなくて、お互いが話し合っただけで協調して仲良くしてください」と、ことを良しとするという意味なので、元々「ワン・チーム」の発想があったんだろうなというふうに思います。

またこの発想は、飯田の「結い」の精神にも通ずるんだらうなあというふうに思います。お互いがお互いを理解し合いそれで深め合っていく、こんな精神を教育委員会でも大事にしたいなあというふうに思っています。

言葉に込められた意味というのは、多様性の包摂であり、横文字で言うならば「ダイバーシティ」と「インクルージョン」だというふうに思いますので、じゃあ具体的に行動ベースでいうと、やっぱり一人の課題を一人の方が抱え込まずにお互いの課題を共有しながらみんなですべて課題解決をしていく、1 + 1 が 3 になるような施策をいっぱい作っていききたいなとそんなふうに思います。

ということで、改めまして教育委員の皆さんにも今年度よろしくお願ひしたいと思います。

それから 2 番目、添付した令和 2 年度の年頭所感及び市政経営の方向について、冊子の添付をさせていただきましたが、市長のほうからも令和 2 年度の大きな市政の方向を指し示す年頭の記者会見がありましたので、こちらのほうも参考にぜひしていただきたいというふうに思います。

今日は、教育委員会のところを抜粋して教育委員会はどうな方針なのかということをお願ひの皆さんとも共有したいということで、この冊子の 29・30 を見ていただいでよろしいでしょうか。いいだ未来デザイン 2028 の戦略的な施策展開ということで、今飯田市は 2028 年のリニア開通後を見越した長期の基本目標を立てているわけですが、その中で基本目標は 1 から 12 あります。それはそれぞれの部が担当の目標を掲げているわけですが、教育委員会は、基本目標 3 と基本目標 4 です。基本目標 3 「地育力が支える学び合いで、生きる力を持ち、心豊かな人材を育む」、基本目標 4 「自然と歴史を守りいかし伝え、新たな文化をつくりだす」これが教育委員会が推進する 2 つの大きな目標です。

その中で、ちょっとページをめくっていただいで、37 ページになりますが、37・38 のところで、いわゆる進捗状況確認の指標としてそれぞれの指標を念頭に置きながら、基本目標 3 を推進していこうということです。

39 ページ開いてください。

教育委員会の特にその地育力が支える学びに対しては、大きな施策、取り組みとしては縦糸に「小中連携・一貫教育」子供たちの学びを途切れなく一貫してやるということで、縦糸。そしてそれを支える横糸、地域の力、保護者の力を借りた教育施策をしていこうという「コミュニティスクール」、これがまあ飯田市の教育の 2 つの基盤になりますというのが前提になります。

その前提のもとで 1 から 10 までの具体的な施策に取り組んでいこうというのが、今年度

の目標になっています。学力向上、外国語の推進、人間関係作り、特別支援等になりますが、ここであえて特にというわけでは、6番のICTを活用した飯田市の教育課題への対応ということで、今年度、2行目になりますけれども、今、ICTは中期7年計画ということで2016年から2022年までを1つの区切りとして進んでいて、いよいよ2020年5年目になるわけです。モデル校からいよいよ発信していこうということで、遠隔会議システムを活用した合同授業、これは遠山地区、私も遠山上村小学校、遠山中学校で行っていたものを竜東中学校区でも展開を図っていききたいというふうに考えています。また、特別支援や不登校児童の生徒の支援のICTも、こちらのほうも積極的に個別支援ができるような機器の活用を展開していききたいというふうに思っています。

さらに「協働的な学習」ということでタブレット端末を一定程度入れながら、グローバル化に対応できる思考力・判断力・表現力を育成したいというふうに思っています。

今年度から小学校の方も新しい学習指導要領が始まるわけですが、その中でプログラミング学習というの也开始します。ここもしっかりと見据えながら実践していききたいと考えています。特に取り出してICTについてやりましたが、これが大きな基本目標3の内容です。

ページめくっていただいて、43ページ、基本目標4のほうです。

これも見ていただいて1番から5番までそれぞれの取り組みを今、計画をしています。今、1番目に書きましたが、令和3年度には、菱田春草没後110周年を迎えます。それに向かって、もう既に令和3年に対しては今年度準備することがあるので、市民や研究団体と連携をしながらどう迎えるかということ準備していききたい。そんな年にしていきたいと思っています。

さらに②番、『伊那谷の自然と文化』をテーマにした教育普及」ということで一番最後のラインですが、小学校6年の中で、最低1回は授業として美術博物館へ来館する仕組みをつくりたいということを考えています。

昨年度、美術博物館が開館30周年を記念してリニューアルしたわけですが、せっかくリニューアルしたのであれば、その内容を充実させながら子供たちに見ていただきたいということで、その仕組みをつくっていききたいというのが今年度の1つの目標になっています。

3・4・5番、それぞれ重要なことだと思いますが、ぜひ読んでいただければと思います。

こんな形で市政の方向についての検討の中で教育委員会の方向についても少し目指していただきまして、よろしくお願いいたします。

3つ目はですね、この学校での部活についての所感、荒木秀夫ということで2ページのも

のを見ていただければなというふうに思います。

荒木秀夫さんは、徳島大学の名誉教授で日本コーディネーショントレーニングの会長を務めていただいています。

もちろん脳科学を活用したスポーツとかスポーツ心理学の第一人者で、全国を飛び回ってコーディネーショントレーニングではラディアン体操とかテレビでもよく出ていらっしゃる方なのでご存じの方もいらっしゃると思いますが、その方をお招きして1月10日16時から高陵中学校において先生たち、部活動を指導している先生たちを中心に講演会を行っていただきました。

60人を超える先生たちが来ていただいてですね、活況したなあというふうに思ってます。お呼びした背景。皆さんご存じのとおり今、飯田市はこの1か月間放課後の部活動をオフにしています。もちろんそれは子供たちが新しい選択肢を持ってもらうというのも大事なんですが、その一方で部活そのものをですねちゃんと変えてかなければいけないと、短い時間の中でどういう指導が良いのかというのをしっかりと理解していくことが必要だということで、荒木先生にご指導いただいたという機会です。

各学校1名を、1名は悉皆ということで全中学校から来たという研修会を行いました。こちらのほうもじっくり読んでいただき、またこちらのほうは、新聞でも取り上げていただいたので見ていただければと思いますが、2ページめくっていただいて、ポイントだけ私がかここ大事なかなという部分を共有したいのはですね。最後の丸ボツの「高等生物は」のところからの3行目ですね。スポーツ・運動指導に見られる「自動化された知性なき運動学習」この問題も大きいと、要するに自分から内発的、自発的に考えない運動というのは、その時には言葉を選びながらも家畜的な運動、要はやらされている運動というのは脳に非常に悪くて、大学生の犯罪率の上昇やスポーツを行っている青少年に行動的問題がおこられるとは無縁ではないというふうに考えられるということで、そういうことをしっかり先生たちも理解して欲しいということでお話がありました。

じゃあ部活をどうやっていけばいいのかということなんですが、下にある4点ですね。やっぱり時間的な配慮をしっかりと欲しいということと、2番目、過激な身体運動は避ける。3番目は「社会性」を維持する活動であることを共有する。さらには「主体性」と「能動性」への配慮ということをしつかりと部活動でやって欲しいということがありました。

ですので、今、部活動変革の中で部活そのもののあり方っていうのも、こういった研修を積み重ねながら飯田市の部活動をより良くしていきたいなあというふうに思っています。

これに延長して、この1月の今「全市型競技別スクール」の状況を雑感としてちょっとお

話をさせていただきたいなあと思います。

始業式から1月8日から、今、各競技始まっています。前回の定例会のほうでは、教育委員の伊藤委員から見学できるようなことをしたらどうかということでご提案いただいたので、その後すぐに全校に見学いいよということで、その通知を出すタイミングでまだ定数に余裕がある競技は追加募集をするということも決まりましたので、本当に貴重なご意見をいただいて、充実した取り組みになっているかなあというふうに思っています。

その中で、コーディネーショントレーニング、男子バレー、女子バレー、バスケットボール、サッカー等を見させていただきました。

その中で非常に印象に残っていることをお話するとですね、バスケットボールは、齋藤洋介コーチがきました。それは3バイ3、古い人たちでいうと3対3の、今、オリンピック代表候補選手です。元ブレイブウォリアーズの選手、キャプテンでその選手がハンドトリック、繰り返し言っていたのは「もっと考えてやろう」「もっと考えてやろう」なんですね。

要するにシュートを打った後、右に外れたか左に外れたか手前に外れたか、そのまま、もう1回練習しちゃうんですね。「左に外れたんだったら何が悪かったか考えよう、短かったらどういうふうにやるんだ。短かったら膝を使ってもうちょつとばねを、そういうのを一本一本考えながらやらないとだめだよ。」っていうのを常に言っていたなあというふうに思います。それは今日のまさに南信州新聞のコメントにあるのでぜひご覧になっていただきたいなあと思います。

もう1つは、これもプロのコーチです。山雅のコーチ、渡辺卓さんというのが来ていただいて、これは本当にプロコーチなので昨年度から山雅に来た方で、齋藤さんの出自も長野県の方ではありません。出身は他の方からきて長野県に貢献していただいたんですけども、渡辺さんも初めて長野県に来ていろんな指導をやっているんですけども、「まあ日本の子供たちには共通しているんだけど、やっぱり長野県の子供はあまり考えずにプレイするのが特徴だと思う」というふうに指摘を言って、同じ日に2人の方から言われたので、私もちょっとぐっときたところがあるんですが、「えっ、どういうことですか。」というふうに言うんですね。「やはり同じように、ドリブルを右足で使う理由、左足を使う理由っていうのはよくわかってない。」と「両方でやる理由っていうのもわかってない。」と「そういうのをしっかり練習しないと、盲目的にやっても練習をしてもうまくならないんだよ」冒頭始まる前に13名の中学生、いろんな子供たちが学校から来てたんですが、渡辺さんからも1つ「今日は私が君たちに伝えたのはとにかく考えてほしいんだ。シンキングしてほしい。」ということ伝えて指導していたのが特に印象的でした。

これが課題なのでこういったところがいろんなチームが学校から来てまた各学校へ戻って、そんな考えるスポーツというのが普及していくといいなあというふうに思います。

今、課題のほうを先にお話しましたが、でも、委員の皆さんにもいただきたいんですが、子供たちの笑顔がすごく良いです。本当に楽しそうにやっていて、抱き合っちゃったりしてるんですよ。ほかの人と。「何で。」と言ったら、「やあやあ、すごく上手くなっちゃうので抱き合ってます。」とか言ってですね。普段、同じチームでやっている人から違うチームに来て違う人たちとやるっていう、これの価値っていうのは大きいし、逆に2人のコーチが2人とも言ったのは、やっぱり逆に「飯田の子供たちっていうのは明るくて素直で本当に友達同士になれるのは、これが本当に良いところだと思います。」っていうようなことを言っていただきました。

そういった意味で言うといろんな学校から来て、もちろん最初は不安なんですけれど、すぐ打ち解けるなというのは私も良いところだなあというふうに思います。そういった意味で新しい取り組みでありますけれども、もちろん課題もありますし、検討すべき点もあると思いますが、今、すべき方向としては子供たちの豊かなスポーツ選択肢という意味では意義があるかなあというふうに思っていますので、ぜひ委員の皆さんにも行っていただいて気軽に電話していただければ、生・スポ課もいっぱいいますのでご観戦いただければなというふうに思います。

いずれにしろ、この年頭所感の1部にも入れましたけれども、こういったスクールを今年度はしっかりと準備して、子供たちの豊かな学びを地育力で支えていきたい。そんなふうに思いますのでよろしく願いいたします。

私のほうからは、以上です。

なにかご質問あったらお願いします。

(発言する者なし)

○教育長（代田昭久） よろしいでしょうか、はい。

日程第6 議案審議（3件）

○教育長（代田昭久） それでは引き続き行います。日程6番、議案審議。

議案第1号 令和元年度飯田市就学援助費支給対象者（要保護及び準要保護児童生徒援助費補助金関係）の認定について

○教育長（代田昭久） 議案第1「令和元年度飯田市就学援助費支給対象者の認定について」お願

いします。

桑原学校教育課長、お願いします。

◎学校教育課長（桑原 隆） それでは、議案第1号「令和元年度飯田市就学援助費支給者の認定について」をお願いをいたします。

認定対象者につきましては、別冊で用意をさせていただいております。それぞれ記載しました認定要件にて認定をいただきますようご提案申し上げます。

以上でございます。

よろしく申し上げます。

○教育長（代田昭久） ただいま第1号の説明がありました、ご質問ご意見等ありますでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） それでは、承認ということでよろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） ありがとうございます。

議案第2号 飯田市教育功労者の決定について

○教育長（代田昭久） 続きまして、議案第2号「飯田市教育功労者の決定について」をお願いいたします。

お願いいたします。

◎生涯学習・スポーツ課長補佐（小島 和好） それでは、議案第2号につきましてお願いいたします。

本日、課長の北澤が所用により欠席しておりますため、課長補佐の小島が説明をさせていただきます。よろしくをお願いいたします。

教育功労者の決定についてでございます。

飯田市教育功労表彰者規定第3条の規定に基づきまして、関係機関から下記の47名の候補者の推薦がございましたので、教育功労表彰者に決定をいたしたいというものでございます。

候補者につきましては全員、公民館に関する職を務められた方で公民館長の職を6年以上務められた方が2名、表彰規定で定める役職を8年以上務められた方が45名、それぞれ地域の公民館活動を担ってこられた功績により地区公民館から推薦されております。

なお、本件が議決されましたら、2月16日曜日に開催されます飯田市公民館大会にお

きまして表彰を行う予定でございます。

以上、よろしくご審議のほどお願いいたします。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

ただいま、議案第2号の説明がありましたけれども、何かご質問ご意見等ありますでしょうか。

よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） はい、それでは、承認ということでよろしくお願いいたします。

議案第3号 飯田市文化財の指定について

○教育長（代田昭久） 続きまして、議案第3号「飯田市文化財の指定について」をお願いします。

馬場文化財担当課長、お願いします。

◎文化財担当課長（馬場保之） 議案第3号、飯田市文化財の指定についてをお願いします。

本案は、飯田市文化財条例第2条の規定により、下記の物件を飯田市有形文化財として指定したいするものです。

物件の名称ですが、中村八幡社の石造狛犬一対。

指定する物件の所在地ですが、飯田市中村2671番地2。

所有者の名称及び所在地につきましては、所有者中村八幡社で、所在地につきましては先ほどと同じであります。

添付の資料の2ページをごらんください。中村八幡社の場所につきましては、5ページの地図のとおり、飯田運動公園の西側に所在する神社で。

次に石造狛犬の概要についてでありますけれども、6ページから10ページのほうに写真を掲載してございますけれども、制作年は延宝6年1678年です。像の様相につきましては阿形につきましては、石造、花崗岩、彩色で、襟毛、それから歯、目を線刻し鼻孔を穿つけるということで背面に以下の陰刻銘がございます。「延宝六戌午小春吉日 奉寄進 中村伊藤十右衛門」。それから吽形につきましては同じく父親の中村伊藤作之丞でございます。ともに像と一体となす台座が現在ではコンクリートで固定されているものです。

これにつきまして価値として、制作年が判明している石造狛犬として市内最古であるということ、中村の庄屋が寄進した旨の陰刻銘がありまして、制作年が判明する石造狛犬としては現時点で市内最古であり、根羽村若宮社の狛犬、元禄9年1696年銘等とともに、県下でも最も古い石造狛犬の1つと見られるということです。

それから2つ目の価値としまして、当地域における江戸時代前期の基準作となる石造狛犬であるということで、鳩ヶ峰八幡宮の石造狛犬や郊戸八幡宮石造狛犬に比べ、寸胴で前足が短く前方に屈むような低い姿勢なことと、素朴で観念的な像容が特徴的なものですが、類例として山本の七久里神社や根羽の若宮社、八柱神社、それから平谷村の諏訪神社等があるんですけれども、こういった像の類例がある。三州街道沿いに複数分布することから江戸時代前期における石造狛犬の作風の1つとして捉えることができるということで、当地域の狛犬の作風の変遷をうかがう上で制作年が判明する事例として基準作となるものと言えるということであります。

それから3つ目の価値としまして、元禄期に遡る本殿と一体となって伝えられているということで、八幡社は万治元年1660年に社殿が造営されているわけですが、元禄14年1701年に再建されたもので、それが現在の本殿とみられるということで、江戸時代前期の本殿と狛犬が一体となって伝えられている例が市内にはなく、江戸前期の神社の様相を伝えるものとして貴重であるということです。

添付の資料1ページ下段に戻りまして、指定の根拠・区分につきましては、飯田市文化財保護条例第2条(1)飯田市有形文化財、それから飯田市有形文化財保護条例施行規則第4条別表、指定基準の「飯田市有形文化財10石造物の内(3)歴史的価値の高いもの(4)学術的価値の高いもの」というところに基づきまして、令和元年12月13日開催の飯田市文化財審議委員会で審議いたしまして、同日、委員会のほうから飯田市有形文化財に指定することが適当である旨の答申がございましたので、これにつきまして飯田市有形文化財として指定すべく提案をさせていただくものです。

以上よろしくご審議のほどお願い申し上げます。

○教育長(代田昭久) はい、ありがとうございました。

ただいま、議案第3号の説明がありましたけれども、何かご質問等ありますでしょうか。

この答申についてでありますけれども、私も文化財審議委員会に出席させていただいてその議論の様子をみているんです。本当に有識者からこの価値についていろんな多方面から慎重な審議が行われたし、当然満場一致とかこういうものをしっかりと飯田市で残すことは大事だなというふうな議論の結果がありましたので、あわせて報告をさせていただきます。

それでは議案第3号を飯田市文化財保護条例の第2条の規定により下記物件を飯田市有形文化財として指定するという事によろしいでしょうか。

(発言する者なし)

○教育長(代田昭久) よろしくお願ひいたします。ありがとうございました。

以上で、今月の議案審議を終了させていただきます。

日程第7 協議事項 日程第8 陳情審議

○教育長（代田昭久） 今月の協議事項及び陳情審議はございません。

日程第9 その他

○教育長（代田昭久） 日程第9 その他。

（1）教育委員報告事項

○教育長（代田昭久） 教育委員報告事項。

報告お願いいたします。

教育委員のほうからご発言をお願いします。

上河内教育委員をお願いします。

◇教育委員（上河内陽子） それでは報告いたします。

1月9日に子育て応援サポーター会議というものに出席いたしました。これは10年以上前から子育て支援課のもとで10人前後の母親を中心としたメンバーが集まって月に1回程度なんですが、いろいろ子育てにかかる課題などを話し合いをしたりとか、あとは子育て応援ガイドブックなんかを作成してまいりました。

現在は子育てガイドブックの中でも、次なる目標として祖父母向けのガイドブックを作成し始めております。というのもやはり子供を取り巻く現状として、お母さんたちがうんと働き始めているということで、先月、子育て応援プランの素案を見せていただいたように、母親たちもうんと働いているので、祖父母、家族みんなで子供を見守り育ていかなければいけないという必要から、2、3年くらい前から、石川県なんかが発端になって、孫ガイドブックというのが発行されるようになり、飯田市でもそれをつくるということで話し合いをしています。

そういった変化の中でお母さんたちだけではなくて、祖父母の皆さんも今どんどん働かなくてはいけないというような現状があって、多様化していて家族の形も一様ではないし、とても忙しい中にあるということをもみんなで確認し合いました。

その中で子育て支援課の担当者が話すには、そんな中でも、その飯田市の幼い子供たちに対する幼児教育というようなものも結構活発にやられている中で、そういったことがやっぱり連携していくといいなっていう現場の声、教育委員会のほうと連携していけるといいなと

いう保育士の先生の声があるということを知りました。

やはり子供をよりよく育てようという気持ちが同じということで、大変重なり合う領域があると思いますので、先ほども小中連携・一貫教育の中に地域の学び合いとして保育士の先生がいらっしゃるという話もありましたが、やはりその幼・保・小・中とこう一貫して連携できるように、先日の子育てプランなどを共有していただいたりとかするのは大変良い機会だと思いましたし、今後も幼・保・小の情報の共有とかを進めていけると良いなということを感じておるところです。

以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

他にはないでしょうか。

はい、三浦教育委員をお願いします。

◇教育委員（三浦弥生） それでは、私はこの年末年始に出席させていただいたものの感想を述べさせていただきます。

1つは12月24日に地域人教育の成果発表会ということで、長野県飯田OIDE長姫高等学校の皆さんたちの地域人教育の成果発表のほうを聞かせていただいております。食品グループの発表を聞いております。

感じたところは、やはりこういった授業、取り組みの中で「地域を知る、そして地域に興味を持つ、そして活動を起こす。評価をしてみる。」といったところの本当に貴重な体験を若い高校生がしているといったところを感じたところです。

もう1点は、聞いていた側なんですけれども、私の席の周りの大人の方たち、そういった方たちの言葉をちょっと拾ってあります。

発表を聞いた時に周りにいらっしゃった方たちが言った言葉をそのまま寄せていただく。「高校生がこういうことをやっているともっと大勢の人に知ってもらわんといかん」というような言葉が聞けたりですとか、「この子たちのあと就職先だよね。店を持たせて実際にやらせるとかそういうこと大事だよね。」なんていうことを周りにいる大人の方、年配の方、そんなお話が聞こえてきました。また、他に聞こえてきたのは「今度、他の地区と俺たち交流会をやるかって言っとるんな。」っていうような言葉も聞かれております。

何を感じたかと言いますと、最初の「高校生がこういうことをやってるっていうことを、大勢の人に知ってもらわんといかん。」という言葉聞いた時には、地域人を育成するという基盤が、こういったところの発表を大人が聞かせてもらうことで成熟するんじゃないかなということをととても感じました。

「今度、俺たち他の地区と交流しようと思っとるんだ」っていうそういう話を聞いたときにも、若い人たちがやることを聞くことで、大人も何かしたくなるんだなっていうところを感じました。

ですので、ああいった若い人たちが学びの場で学んでいくというところを刺激を受けて、大人に何かこういうふうに、地域の教育というものが豊かになるな。地域が活性化というのはこういうところから始まっていくのかなとそんなことを感じたそんな発表会でした。

もう1点は、成人式に出させていただきます。6日に松尾地区ということで出させていただきます。こちらのほうは、実行委員であいさつをしてくださったその成人の男性の方が飯田広域消防に高校卒業から勤めているというようなことでした。

ユーモアも交えたあいさつの中の最後のところに「この地域は俺たちみたいな若い力が必要なんです。地域にいる人も、地域を離れている人も、また地域を離れている人が帰ってきて、この地域を俺たちで盛り上げていきましょうね。」っていうことを言ってくださったというところで、来賓のほうからもちょっと拍手が漏れていたようなそんな感じです。

地域でそういうことを若い人たちがあいさつの中で言うてくださるといったところに、本当に地育力というものを感じたところです。

その祝賀会の話もちょっと感想を言わせていただきますと、実行委員の方たち4人共もう社会に出て就職をしている、そういう方たちが実行委員になってくださっていました。

そんな中でことし、来賓席に初め4回目ですかね、私、松尾出させていただきます、初めてお酌に回ってきてくれました。お酌が嬉しかったかっていうか、お酌の良し悪しではないんですけれども、お酌というところで来賓一人ひとりに「ありがとうございます。」というあいさつを若い成人の人たちがしてくださって、一人ひとりの来賓と言葉を交わしてくれると、「ああ、もうこういったもう社会性ができてるんだな」っていう感じました。

本当にその人の本人の資質もあると思います。また、ご家庭での教育もあったかと思えますけれども、社会に出ているというところでの地域のそういった教育や社会の教育で、こういった成人が地域でできるんだなということとても感動させてもらっています。

以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。

北澤教育長職務代理者お願いします。

◇教育長職務代理者（北澤正光） 私からは2点です。

1点目は、さっき教育長からも話があったんですけど、部活動のオフシーズンのスクール

等の試行についてです。1月10日に男子バレーの開校式の様子を見に行きました。子供たちは6人だけだったんですけど、2人のコーチと密度の濃い練習をやっていました。

ちょうど県教委のスポーツ課の斎藤係長さんと指導主事さん、それから飯田事務所の所長さんと担当の吉澤指導主事さん、さらに勤労青少年ホームの大蔵所長さんなども見に来られて、ご一緒しながらお話もしながら見ていました。

その中で県教委のスポーツ課の斎藤係長さんからは、飯田市がこういう先駆的な取り組みをされていることをとってもありがたいし学びたい。全県的に見ると、保護者や地域の方に学校の部活動の現状について理解してもらうことがとても苦しい、なかなか理解が進んでいかない。

飯田市がどうやって保護者や地域の理解を得ながらここまで進めて来ているのかといったところを学ばせて欲しいと盛んに言っていました。

県としても飯田市の取り組みはありがたいので、来年度のことになるが、地域のスポーツ団体がスクールのような形でやっていくことについて、補助事業を企画中で、それが通れば補助金をそういうスポーツ団体に出すことも進めていきたいというようなことも話されていました。

最近注意して見ていると、中学生が結構早い時間に下校していく場面を見かけます。いまオフシーズンで、中学生たちが帰るのは4時ちょっと回ったくらいの辺で、かなり健全な状態で帰宅している。ついてはその後、どういう時間の過ごし方になっているかといったことについて、これは前々から申し上げていることで、要望になるのですが、このオフシーズンの試行が終わった後で、子供たち本人からはもちろんですけど、保護者の皆さん、それから受け入れた地域のスポーツ団体の皆さん等から、子供たちがどんな意識で取り組めたかと、親はそれをどんなふうに見守ったかといったところについて、調査・アンケートを取ったり、学校のほうでいくと、担任の先生方はは全員の子供の生活記録を毎日読んでいるわけですから、この期間の生活記録にどんなことが記されていたかとか、具体的なエピソードでもいいんですけど、こんな子供たちの姿があったといったことを、さらに言うと授業中にこんな変化があったとかというようなことまで含めて、学校としても子供たちの様子を取りまとめて、広い視点からこの一か月がどうだったのかということを検証して、次へつなげていくことが必要ではないかと思いつつ、男子バレーに取り組んでいる子供たちを見させてもらいました。

もう1点は、成人式に関わることで、私も鼎地区の成人式出させていただきました。141名対象中の105名が参加しての成人式で、非常に和やかに式が行われていました。松尾地区と

同様に、実行委員の子たちが、その陰では公民館主事さんやいろんな方が上手に支えていただいていたのだと思っているんですけど、実行委員の子たちが前面に出て、インタビューとかクイズ形式の地域理解というようなことも、実行委員の子たちが会場内を駆け回って盛り上げながら式をつくり上げていました。

話を聞いてくと、ことし成人した子たちが小学校5年生のところから飯田市の連携・一貫教育がスタートしているんです。そういう中で育ってきた子たちがどんなことを言うのか興味がありました。代表の2名の成人からは、ここまで見守って育ててくれた地域に何らかの形で役立ちたいということを2人ともが話をされていたのがとっても印象的でした。まだ具体的なことにはなっていないと思うのですが、地域の人に見守られながら自分たちは育ってきたという言葉が普通にできるって、自分が成人式の頃はどうだったかなって思うと、全然違うなあという思いがありまして、とっても温かい気持ちで帰って来たことを報告させてもらいます。以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

伊藤教育委員いかがでしょうか。

◇教育委員（伊藤昇） ちょっと重複しますが、成人式のことですが、私、羽場丸山地区で西中だったんです、西中の生徒さんで。上河内教育委員とたまたま隣の地区で一緒だったんですが。

やはり出席数が多いんですね。やっぱり卒業生が90名あまりいて70何名、8割ということで、おとなしいおっとりとした成人式でして、そういう出席者が多くなってきてもそれにながっていくんですけども、一昔前の荒れた成人式時代とかなり違う時代になったんだなっていうそんな実感が持ちました。

簡単ですけど、以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

委員の皆さん同士も、感想等聞いていかがでしょうか。

（発言する者なし）

はい、ありがとうございました。

（2）教育次長報告事項

○教育長（代田昭久） それでは、2番、「教育次長及び地域人育成担当参事報告事項」あれば、お願いします。

◎教育次長（今村和男） ありません。

◎地域人育成担当参事（青木 純） 特に、ありません。

(3) 学校教育課報告事項

○教育長（代田昭久） はい、それでは「学校教育課報告事項」お願いします。

◎学校教育課長（桑原 隆） ないです。

(4) 生涯学習・スポーツ課関係報告事項

○教育長（代田昭久） 「生涯学習・スポーツ課関係報告事項」お願いします。

◎生涯学習・スポーツ課長補佐（小島和好） ありません。

(5) 公民館関係報告事項

○教育長（代田昭久） はい、「公民館関係報告事項」お願いします。

秦野市公民館副館長、お願いします。

◎市公民館副館長（秦野高彦） それでは資料 No. 1 をごらんいただきたいと思います。

本日は、2月の16日に予定をしております第57回飯田市公民館大会のご案内をさせていただきます。

『関り つながり 学び合う』心豊かな暮らし・地域を目指して、今、あらためて自治を考える」をテーマに飯田市公民館大会を開催させていただきたいと思います。

今回は、基調講演と分科会に隠岐島前高校で高校を核とした人づくりと地域づくりを取り組まれ、現在、文部科学省中央教育審議会初等中等教育分科会の委員で一般財団法人地域・教育魅力化プラットフォーム共同代表を務められております岩本悠さんを迎えこの地域の大切にしてきた自治の精神について、いま一度考えるという機会を設けたいと思っております。

本日、ご案内を差し上げてございますので、ぜひご参加をいただきたいと思います。

よろしく願いいたします。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

(6) 文化会館関係報告事項

○教育長（代田昭久） 続いて、「文化会館関係報告事項」お願いします。

柵田文化会館館長、お願いします。

◎文化会館館長（柵田昭彦） それではお手元の資料2をお願いいたします。

「人形劇のまちづくり」の推進に関する取り組みについてでございますが、まず1番人形劇公演事業についてご説明いたします。

(2) 番の実施済みの事業の中で3つ目の新春を寿ぐ竹田人形館、これが1月11日・12日に20周年竹の子座を記念しまして開催されました。参加者156名ということで1年間かけた血脈の印、初演という形での公演がされたということです。

(3) 今後の予定のところをご説明申し上げます。1番目の人形劇の定期公演でございますが、飯田西中学校の人形劇部 TheWorld が出演する1月25日に定期公演がございます。次でございますが、いいだ人形劇まつり、りんごっこ劇場、16回目になりますが、地元のアマチュア劇団の皆さんが上演するお祭りということで、今回2月2日に飯田女子短大のアカシアホールで開催されます。10組の出演がございます。

次に2番、人形劇創造支援事業についてご説明申し上げます。

実施済みの事業のほうですが(2)番、実施済みの事業は、12月に人形劇の「人魚姫」の再演のプロジェクトが12月8日にありました。あと、伊那谷のタイムトラベラーズの人形劇活用事業を実施しております。

次のページをご覧いただきたいと思います。今後の予定でございますが、丸3つございますが、人形劇の講座のほうを開催しております。あと、伊那谷のタイムトラベラーズの第10回から12回目のお話づくりということで開催を予定しています。一番下にありますが、オトナのための人形劇講座「精密機械とからくり人形」ということで3月7日に開催を人形劇センターのほうで予定をしています。

3番、人形劇フェスタの関係でございますが、(2)が実施済みの事業でありまして、いま、フェスタ上演参加の募集、それとポスター・ワッペンデザインの募集を実施しておるところでございます。

5番、人形施設の管理運営事業につきまして(3)番のほうをごらんいただきたいと思っております。今後の予定ですが、川本喜八郎人形美術館のほうで、第26回目の展示会ということで1月30日から来年の1月中旬までの予定で「桃園の誓いから三顧の礼」ということで予定しております。

最後に6番、人形劇のまち国際化推進事業でございますが、(2)番、実施済みの事業でございますけれども、伝統人形浄瑠璃を通じた南あわじ市との交流が12月14日から15日に開催され、竜峡中と高陵中の生徒が参加しました。プロの人形劇の観劇と座員と交流、あと南あわじの三原中学校の郷土部の生徒と担い手との交流等ありまして、自分たちが行っている人形劇についての考え方を改めて交流する中で深めて来たという状況でございます。

以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

（7）図書館関係報告事業

○教育長（代田昭久） 続いて「図書館関係報告事項」をお願いします。

滝本中央図書館長、お願いします。

◎中央図書館長（瀧本明子） 資料No. 3をごらんください。

図書館から「よむとす事業の報告及び予定」をお願いいたします。

まず、報告ですが、(3)の年始の企画ですが、恒例になっておりますが、中央図書館の「おたのしみ本」上郷図書館の「たまたばこ本」、中身がわからないようにして、テーマに沿って借りていただくというものは、今年も大変好評で3日ほどで50包みがすべて貸し出しされました。

それから今後の予定ですが、先ほどオレンジ色のチラシをお配りいたしました。部活のオフシーズンに図書館でも中学生の興味関心を広げることを何かできないだろうかということで、中学生向けの企画「Join us! いいだ Lib」図書館で一緒に何かしましょうという企画を考えました。

オレンジのチラシをみていただきますとわかりますが、1月25日土曜日の午後に中学生に来ていただきまして図書館の中、書庫や書架などを紹介しまして、どんなふうの本を選んでいるかということを紹介しながら、実際に書店へ出かけて自分たちの読みたい本、または図書館に入れて同じ世代の皆さんに読んで欲しい本を選んで帰ってきます。

それから選んできた本の紹介のポップをつくって展示をします。またこの企画をきっかけにして、これからも図書館に関わっていただければというふうに考えております。

定員が10名ということで募集しておりますが、現在2名ということでまだ募集を続けております。

それから最後のところに書いてありますが、蔵書点検を毎年行っておりまして、今年度も蔵書点検を行いますが、臨時休館があります。中央図書館が2月18日から21日火曜から金曜、平日ですが4日間お休みです。それから鼎図書館が2月25日、上郷図書館が26日と27日の木曜日、休館させていただいて見えるところの蔵書点検を行います。

以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

（８）美術博物館関係報告事項

○教育長（代田昭久） 続きまして、「美術博物館関係報告事項」をお願いします。

池戸美術博物館副館長をお願いします。

◎美術博物館副館長（池戸通徳） お手元に４枚のチラシがございます。飯田美術博物館から今後の予定ということでご案内いたします。

まず、水色と黄色につきましては、今月・来月の「びはくにゅーす」でありましてイベントの方が紹介してございますので、内容を確認されると嬉しいと思います。

その中から抜粋して２つのチラシ、ピンクとグリーンで説明いたします。

まず、ピンク色につきましては、美博第４回文化講座のおさそい「近代伊那の２つの思想の葛藤」ということで、１月２６日の午後、本館評議員であります松上清志氏による講座ということになっておりますのでよろしくをお願いします。

それから最後に緑色のびはく学芸祭、第１２回を数えております。こちら２月２日午後ということになっております。口頭発表、展示解説、そしてポスター発表となっております、詳細は２面にプログラムがございますのでまたご確認いただき、ぜひ足を運んでいただければ嬉しく思います。

以上であります。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

（９）歴史研究所関係報告事項

○教育長（代田昭久） 続きまして、「歴史研究所関係報告事項」をお願いします。

小椋歴史研究所副所長、をお願いします。

◎歴史研究所副所長（小椋貴彦） それでは説明をさせていただきます。

レジュメの最後のページになりますが、まずは１２月に行いましたアカデミア第８９講座の実施報告でございます。１２月１４・１５日と２日間にわたりまして、国立歴史民俗博物館の横山百合子氏をお招きいたしました。

テーマといたしましては、幕末維新期の新吉原遊郭と遊女ということで講演をいただいたところでございます。

報告の概要、以下に載せておりますので、また、お目通しいただければ幸いです。

それからレジュメとは別に１枚紙で地域史講座、それからアカデミアのご案内を手元にお

配りしていますので、ご都合良ければまたご参加をいただければと思います。

説明は以上でございます。

よろしく申し上げます。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

ただいま、学校教育課から歴史研究所までの報告が行われましたが、これに関するご質問
ご意見等ありますでしょうか

よろしいでしょうか。

（発言する者なし）。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

（10）今後の日程について

○教育長（代田昭久） それでは、今後の日程について申し上げます。

滝沢学校教育課長補佐、申し上げます。

◎学校教育課長補佐（滝沢拓洋） それでは、今日の資料の3ページ目をご覧くださいと思います。

今後の日程につきまして主なものについて記載してございます。なお詳細につきましては
教育委員のみ日程表を配付していますのでお願いしたいと思います。

1月18日には、前々から案内がありますキャリア教育推進フォーラムがございます。また
2月6日には、今年度2回目であります最後の小中連携・一貫教育推進委員会があります
ので出席をお願いできればと思います。

つぎの教育委員会でございますが2月13日を予定しておりますので、よろしくお願
いしたいと思います。

説明につきましては、以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

日程について何かご質問はありますか。

よろしいですか。

◇教育委員（伊藤昇） 確認です。17日月曜日9時から校長会、それから19日水曜日の9時から
教頭会、これもあるわけですね。

○教育長（代田昭久） 滝沢学校教育課長補佐申し上げます。

◎学校教育課長補佐（滝沢拓洋） はい、最後の校長会と教頭会ですので、全員の出席をお願い
したいと思います。

○教育長（代田昭久） 私からも2月17日月曜日、19日水曜日ですね。それぞれ校長会、教頭会
ありますので、大変お忙しい中ですがご出席の方をよろしくお願いします。

他にありますか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） それでは日程としては以上ですが、その他ご発言ある方いらっしゃいます
でしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） よろしいでしょうか。

日程第10 閉 会

○教育長（代田昭久） それでは以上をもちまして、令和2年1月定例会を閉じさせていただきます。
す。

どうもありがとうございました。

閉 会 午後4時1分